

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 6 月 4 日現在

機関番号：17102

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2016～2017

課題番号：16H07039

研究課題名(和文)教師のネットワークを活用した授業改善プロセスの促進 - 中学校家庭科教師の事例 -

研究課題名(英文)Promotion of lesson improvement process utilizing teacher's network- Case Study of Home Economics Teachers of Junior High School -

研究代表者

兼安 章子(KANEYASU, Akiko)

九州大学・人間環境学研究院・助教

研究者番号：00783101

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、授業改善プロセスに影響すると考えられる教師同士のネットワークの実態を明らかにすることを目的とした。

質問紙調査及びインタビュー調査を行った。近隣中学校教師とのネットワーク形成の実態や、相談相手としての他校教師との個々の繋がりが明らかになった。また、研究手法としてのネットワーク分析の有効性についても検討を進めることができた。

これらの成果は、国内外における学会において発表し、一部論考としても公表した。

研究成果の概要(英文)：This study aimed to clarify the actual situation of teacher's network which is thought to affect the lesson improvement process. Questionnaire survey and interview survey were conducted. It became clear that it forms a network with neighboring junior high school teachers and that it is connected individually with other teachers as a adviser. In addition, this study also examined the effectiveness of network analysis. These results were announced at academic congress both in Japan and abroad, and some were also published as research paper.

研究分野：教師教育

キーワード：教師 中学校 ネットワーク 相談相手 社会ネットワーク分析

1. 研究開始当初の背景

教師のインフォーマルな関係性が力量形成に大きな影響を及ぼすことが明らかにされてきたが、その形成プロセス、とりわけ、教師の中心的職務である授業力形成への影響は言及されてこなかった。また、校種や教科別における検討は不十分で、特に技能教科で各校に1名しか配置されない「1人職」である家庭科教師にとっての授業力形成及びネットワークによるサポート機能は必須の課題である。

具体的な背景として、次の(1)(2)があげられる。

(1) 教師のインフォーマルな関係性が力量形成に及ぼす影響について

教師の人間関係は、高野(1980)によると生徒や管理職、同僚などを含む複雑な関係である。特に、同僚について、油布(1988)は、プライベート化が進展し、教員集団の集団的拘束が薄れてきつつあることを指摘した。

一方で、校外の教師との関係について、山崎(2012)は、研修で得られた人的ネットワークが力量形成に大きく影響することを指摘する。さらに、川上(2013)は、学校管理職の参加する研修とネットワークについて研究を行っており、校長会や教頭会が教育政策に関する学校間での合意形成の場として機能していたことや、日常的な情報交換が行われていたことを明らかにしている。以上のことから、インフォーマルな関係や教師の持つ教師同士のネットワークが教師に与える影響が大きいこと、重要な契機になっていることは明らかである。しかし、教師の中心的職務である授業への影響、授業力形成への影響は検証されていない。教師の授業力形成においても、教師間の関係が機能している可能性が十分に考えられ、今後、検討していく必要があるだろう。

(2) 1人職である家庭科教師の授業力形成に関する先行研究について

中学校家庭科教師は、家庭科教師の複数人配置校が減少した結果、校内で授業に関する相談相手がいない状況が増加しており、授業力形成において、校内の教師との関係は、必ずしも期待できない。勤務校で家庭科指導について相談する人がいないとの回答は、小学校教師45%、中学校教師78%、高等学校教師47%である(全国家庭科教育協会2010)。

学校規模の縮小などにより、家庭科教師が孤独化している危機的状况から、家庭科教師同士のネットワークの必要であり、強化(川村・中山2005、植田・小澤2006)が急がれている。さらに、授業力形成上、家庭科教師同士のインフォーマルな発達サポート機能の必要性(小林・岳野2015)が指摘されている。したがって、家庭科教師のネットワー

クの実態解明が今後の研究の重要な基盤となるだろう。

以上の背景から教師のインフォーマルな関係性、家庭科教師同士とのネットワークの必要性から、校外の家庭科教師同士のネットワークと授業改善における教材変容の関係性について検証を試みる必要があると考えた。

2. 研究の目的

本研究は、授業改善プロセスに影響すると考えられる教師同士のネットワークの実態を明らかにすることを目的とする。

さらに、教師ネットワークの解明におけるネットワーク分析の有効性について検証する。

3. 研究の方法

中学校家庭科教師及び比較対象として理科教師に対するインタビュー調査と質問紙調査を行った。インタビュー調査においては、できる限り、本研究着手前より調査を行っている対象者へ継続調査を行い、以前のデータと併せて分析できるようにした。調査内容は、個々の教師の保有する人的ネットワーク及び、授業の実施に関わる内容とし、個々のネットワークの変容及び、授業改善との関わりについて検討した。

また、研究方法としてのネットワーク分析の汎用性について検討を行った。ネットワーク分析が教師を対象とする研究で用いられている事例を踏まえ、方法論としての可能性を分析した。

4. 研究成果

(1) 得られた主な成果

① ネットワーク分析の援用可能性

教師教育分野、特に教師間の関係を解明することに資する研究におけるネットワーク分析の可能性を考察した。教師間の関係は、これまで、集団として捉えられ、検討されてきたが、ネットワークという概念から捉え直すことで、その構造や関係構築のプロセスを解明できる可能性を見出した。

教師教育の分野、特に教師間の関係を対象とする研究においては、これまで、教師が形成する文化や、一定の設定化における教師の意識について、研究したものが多く存在した。ただし、ネットワーク分析には、限界や課題も存在しており、ネットワークとして捉えられる範囲や汎用性の限界、調査における課題を指摘した。課題については、ネットワーク分析が持つ特性でもあることから、方法論としての採用においては工夫が不可欠である。ネットワークという枠組みで、学校や教師がつくる社会を検討する意義もあるだろう。ネットワーク分析という手段の活用から、更なる教師教育研究の進展が期待できる。

教師個々のネットワーク

ネットワーク分析の手法を用いて、対象教師と相談相手との関係性を考察した。学校外で行われる研修に参加する教師の多くは、校外の相談相手を保有しており、相談経路の拡大が期待できる一方、校内の同僚への相談経路を縮小する傾向が見出された。

校外に複数の相談相手を保有する教師は、必ずしも相談相手同士が知り合いである密度の高いネットワークを形成しているわけではなく、校外の相談相手と個々の関係を結んでいる実態が確認された。

(2) 今後の展望

教師同士のネットワークが個々の授業改善に影響する可能性が見出されたが、詳細について言及できるレベルでの解明には至っていない。そのため、今後も調査を継続し、本研究で得られたデータと併せた分析を継続する予定である。

また、教師のネットワークの変容については長期的にそのプロセスを検証する必要があるだろう。教師の保有するネットワークと教師の職能成長との関連について、研究を発展させていきたい。

【参考・引用文献】

- ・ 植田真理子・小澤紀美子「中学校・高等学校における住まいの教育に関する研究：家庭科教師の意識と授業実践を中心として」『東京学芸大学紀要・総合教育科学系』第57号、2006年、367-373ページ
 - ・ 川上泰彦「教育経営研究と「社会ネットワーク分析」一導入段階における「質的アプローチ」一」『日本教育経営学会紀要』51号、2009年、116-119ページ
 - ・ 川上泰彦・妹尾渉「教員の異動・研修が能力開発に及ぼす直接的・間接的経路についての考察：Off-JT・OJTと教員ネットワーク形成の視点から」『佐賀大学文化教育学部研究論文集』第16号第1巻、2012年、1-16ページ
 - ・ 川上泰彦『公立学校の教員人事システム』学術出版、2013年、191-213ページ
 - ・ 河村美穂・中山珠真実「家庭科教師の成長 中学校の授業観察からみる「成長の契機」」『埼玉大学紀要教育学部（教育学科）』第54号、2005年、29-22ページ
 - ・ 小林陽子、岳野公人「家庭科教師の専門性の発達 家庭科教師教育の視点から」『日本家庭科教育学会会誌』第58巻第2号、2015年、69-78ページ
 - ・ 全国家庭科教育協会研究調査部「家庭科教育の充実に関する調査一小・中・高等学校における家庭科、技術・家庭科の授業の充実を図るための課題」東京：全国家庭科教育協会、30ページ
 - ・ 高木幸子「教材の役割変容からとらえる授業実践力の向上 教育実習生から教師への成長」『教材学研究』第21号、2010年、111-120ページ
 - ・ 高野桂一『学校経営の科学第5巻人間関係論』明治図書、1980年、46-51ページ
 - ・ 平松闊『社会ネットワーク』福村出版、1990年
 - ・ 安田雪『ネットワーク分析何が行為を決定するか』新曜社、1997年
 - ・ 山崎準二『教師の発達と力量形成 続・教師のライフコース研究』創風社、2012年、454-455ページ
 - ・ 山崎準二『教師の発達と力量形成』創風社、2002年、351-353ページ
5. 主な発表論文等
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)
- [雑誌論文](計2件)
- 兼安章子、教師の相談相手とその関係性についての考察 チーム学校下における人的ネットワークに着目して、九州地区国立大学教育系・文系研究論文集、査読有、5巻、2017年。
- https://nuk.repo.nii.ac.jp/index.php?active_action=repository_view_main_item_detail&page_id=13&block_id=17&item_id=325&item_no=1
- 兼安章子、教師教育研究におけるネットワーク分析の検討：教師間の関係を対象とする研究から、九州大学大学院人間環境学府（教育学部門）教育経営学研究室/教育法制論研究室、査読なし、19巻、2017年、21-27ページ。
- https://catalog.lib.kyushu-u.ac.jp/opac_detail_md/?lang=0&mode=MD100000&bibid=1807598
- [学会発表](計2件)
- 兼安章子、家庭科教師のネットワークと授業改善、日本家政学会第69回大会、2017年。
- https://www.jstage.jst.go.jp/article/kasei/69/0/69_282/_article/-char/ja/
- KANEYASU Akiko, The Effect OF Network to Teaching Improvement Of Home Economics Teachers, IFHE (international federation for home economics), 2016.

6. 研究組織

(1) 研究代表者

兼安 章子 (KANEYASU Akiko)
九州大学 人間環境学研究院・助教
研究者番号：00783101

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし

(4) 研究協力者

なし